



彫塑研究室ギャラリー企画展・ワークショップ報告  
NAIVE ART and CONCEPTUAL ART  
金塚貞夫+クラウス・シュテック二人展

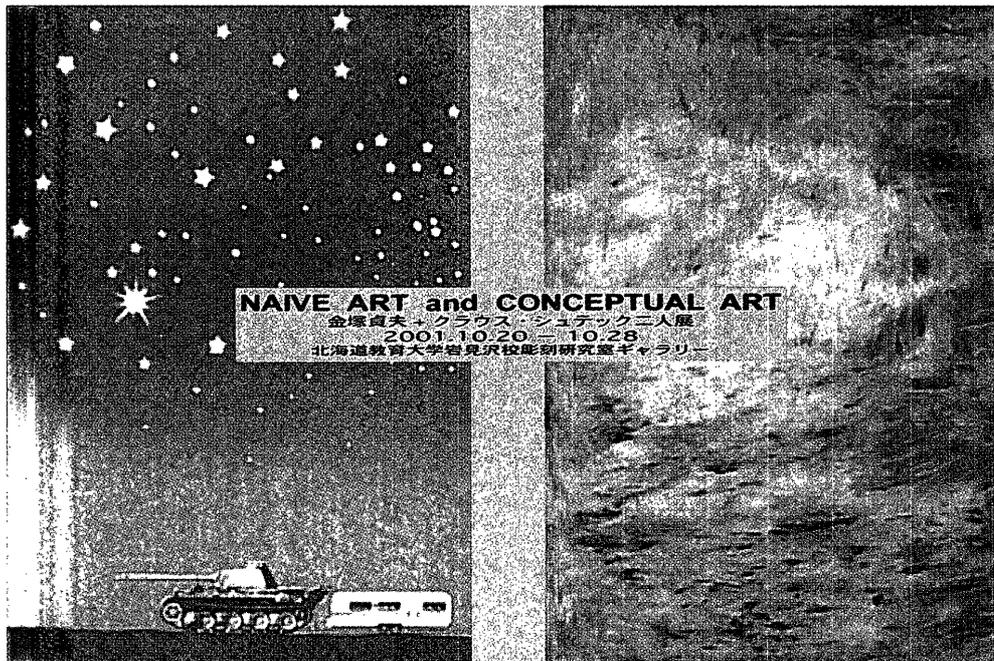
メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-07-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 坂巻, 正美 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://hokkyodai.repo.nii.ac.jp/records/9327">https://hokkyodai.repo.nii.ac.jp/records/9327</a>

# 彫塑研究室ギャラリー企画展・ワークショップ報告

NAIVE ART and CONCEPTUAL ART

金塚貞夫+クラウス・シュテック

二人展



協力者：金塚貞夫（出品作家）

松浦長武（社会福祉法人 恵庭光風会 知的障害者施設 恵庭光と風の里 職員）

岩崎直人（札幌市芸術の森美術館学芸員）

社会福祉法人 恵庭光風会 恵庭光と風の里

北海道教育大学学生有志

HIGH TIDE “ラディカルな意思の現れ”展実行委員会

一般有志

はじめに、この展覧会の企画とワークショップに協力して下さった多くの方々に感謝いたします。

企画者：坂巻正美（本校美術研究室）

## 〈会場〉

北海道教育大学岩見沢校彫塑研究室ギャラリー

## 〈会期日程〉

搬入：平成13年10月19日

展示期間：平成13年10月20日（土）～10月28日（日）

特別鑑賞会：会期初日、一般の鑑賞者と批評家や美術家が車座になって対話形式の作品鑑賞会を行った。

搬出：平成13年10月29日

〈ワークショップ参加者〉

- ・総勢・・・約279名
- ・記帳者数・・・・・・・・・・179名
- ・初日作品特別鑑賞会参加者数・・・・・・・・16名
- ・無記名者数・・・・・・・・約100名程度
- ・地域別参加者数（記帳者数のみ）

岩見沢市……81名	長沼町……………1名
栗沢町……………5名	北広島市………2名
美唄市……………5名	倶知安町………1名
南幌町……………1名	小樽市……………1名
江別市……………8名	石狩市……………1名
恵庭市……………14名	札幌市……………55名
栗山町……………3名	旭川市……………1名

〈ワークショップの概要〉

- ・このワークショップは、岩見沢校、彫塑研究室ギャラリーでの美術展“『ナイーブアートとコンセプトチャルアート』金塚貞夫とクラウド・シュテック二人展”の作品鑑賞を通じて、現代美術の紹介と楽しみ方を考える目的で行った。展覧会開催にともない、岩見沢と札幌周辺の地域を対象に広報活動をした。9日間の会期を通じて企画者と協力スタッフが、展示作品を通じて鑑賞者との対話を行った。

また、このワークショップは、北海道立近代美術館で開催された HIGH TIDE “ラディカルな意思の現れ”展の地域交流ワークショップ事業の一つとしても、筆者の彫刻作品の新作発表展示と関連して報告を行った。

(HIGH TIDE “ラディカルな意思の現れ”展については、下記のホームページにて閲覧できる)

<http://www.sap.hokkyodai.ac.jp/~miurake/hightide/index.html>

(二人展・作家紹介)

金塚貞夫の絵は、その色彩や画面構成から、内面へ沈潜していく瞑想的な風景を感じさせてくれる。彼の絵は、クレヨンを使い、時間をかけていくつかの色を厚く塗り重ねるといった行為によって自身を画面に解放していくようにも見える。クレヨンの厚塗り画面からは、強い筆圧で単調な手の動きの繰り返しによる技法とは思えないような、深い色彩で奥行きのある空間が感じられる。彼の作り出す画面は、鑑賞者自身の内面世界にもあるであろう深い場所へと導いてくれるような装置と言え換えることもできるであろう。

もう一人の作家は、ドイツの「コンセプチュアルアート」の作家でクラウド・シュテックという人物である。この作家は、コラージュや言葉を使ったポスターを制作し、街頭に掲示する活動を続けている。ポスターの内容は、独占的巨額資本の強引なやり方から起こる環境破壊や民主主義に反する権力などを批判している。ポスター（作品）の中には、ある企業の登録商標を、そのままコラージュしたモノもあり、掲示の結果、企業イメージに対する営業妨害として訴えられ、表現や言論の自由をめぐる裁判が起きている。しかし、シュテックは、弁護士でもあり、彼にとっては、利益優先で環境破壊等を引き起こす企業の過失責任を認めさせるための裁判さえ作品の一部となっている。ポスターの掲示によって巻き起こる様々なリアクションを通じて、大きな意味では自由や平等、平和、ということについて考えることが彼の作品を鑑賞することになる。巨大資本による環境破壊

や経済支配に対し、シュテックは、芸術手段を武器に戦う社会運動家のようなアーティストである。

作家クラウス・シュテックの作品は、「コンセプチュアルアート」の領域で20世紀の現代美術のある極点であり、'60年代~80年代にかけて社会の様々な出来事を素材として表現するラディカルな作家であった。それに対し、感覚的に色を塗るといふ素朴な行為で描き続ける金塚貞夫の作り出す作品は、「ナイーブアート」「アール・ブリュット」「アウトサイダーアート」などと呼ばれ、一般的には現代美術の外側に在る表現領域とみられている。しかし、金塚の絵画空間の瞑想的な空気も、現代に強い光を放つ同時代の美術表現なのである。

### 〈ワークショップの成果〉

- ・上記、作家紹介の通り、概念的と感覚的という意味で対照的な両者の作品が、同じ空間に展示されることで、鑑賞者は、様々なことを感じ、考え、鑑賞者同士の対話が活発に行われた。このワークショップでは、9日間の会期中を通じて地域の人たちと一緒に「創造することとは?」「現代美術とは何か?」等、私たちの身近な生活や社会と美術の関係について深く考える対話の時間を、持つことができた。
- ・鑑賞者からは、二人の作家を比較する積極的な発言があり、難解で敬遠されがちな現代美術を楽しむ方法を探るワークショップとなった。
- ・美術関係者が思いもしないような考え方が、一般の鑑賞者から飛び出すなど、「このワークショップに参加したことで、芸術に対する既成概念や日常の美意識の変化に繋がった」という感想があった。
- ・このワークショップの報告会は、「HIGH TIDE “ラディカルな意思の現れ”展」会場（道立近代美術館）にて討論会の口頭発表に加え、ビデオと鑑賞者の感想文、作家作品資料等を展示する形で行った。

### (鑑賞者の感想ノートから抜粋)

#### 〈会場風景〉

NAIVE ART and CONCEPTUAL ART  
金塚貞夫 + クラウス・シュテック 展

ご感想をぜひお聞かせ下さい。  
どうぞ宜しくをお願いいたします。

金塚さんの色を台紙に展示して初めて見た時にとても新鮮な感じがしました。  
ボクも以前から色を塗って楽しんでいて、少しは色を塗ってみたいと思っていました。

金塚さんの絵は、色合いが綺麗で優しい感じがして、  
なにより、何かに思いが通じている感じがしました。  
ボクもその「思い」が通じている感じがして、とてもいい感じがしました。

ボクも「思い」が通じている感じがして、とてもいい感じがしました。  
「原宿の王様」が大好きで、金塚さんの作品は、  
自然の風景、街の風景など、どこの情景のように  
見えます。

ボクも「思い」が通じている感じがして、とてもいい感じがしました。  
金塚さんの「思い」が通じている感じがして、とてもいい感じがしました。

金塚さんの作品は、よく見ると色合いが綺麗で、とても優しい感じがして、  
なにより、何かに思いが通じている感じがしました。

ボクも以前から色を塗って楽しんでいて、少しは色を塗ってみたいと思っていました。

金塚さんの作品は、色合いが綺麗で優しい感じがして、  
なにより、何かに思いが通じている感じがしました。

ボクもその「思い」が通じている感じがして、とてもいい感じがしました。

金塚さんの作品は、色合いが綺麗で優しい感じがして、  
なにより、何かに思いが通じている感じがしました。

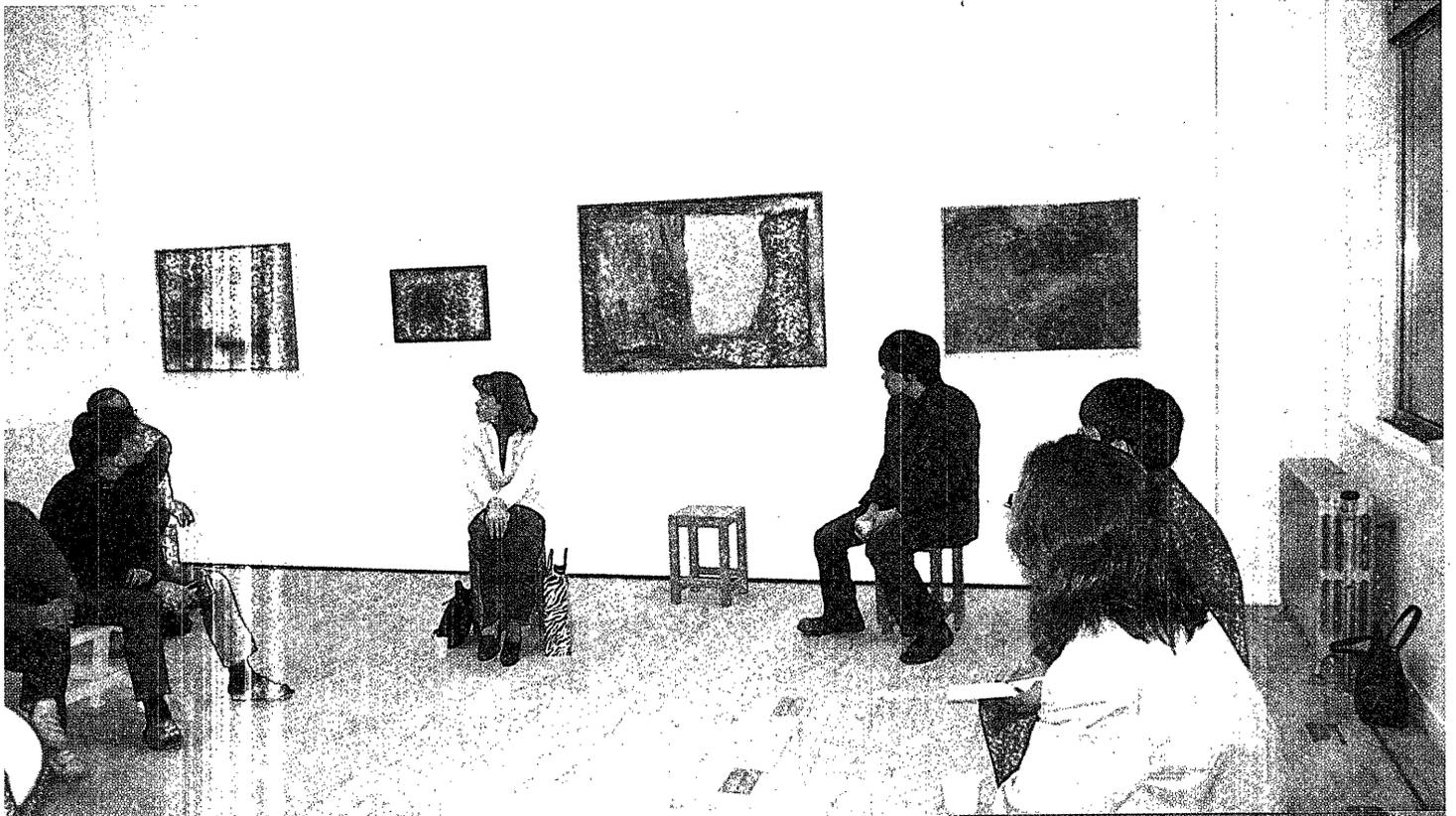
ボクもその「思い」が通じている感じがして、とてもいい感じがしました。

ボクも「思い」が通じている感じがして、とてもいい感じがしました。  
金塚さんの「思い」が通じている感じがして、とてもいい感じがしました。

道立近代美術館で開催される「HIGH TIDE “ラディカルな意思の現れ”展」会場（道立近代美術館）にて討論会の口頭発表に加え、ビデオと鑑賞者の感想文、作家作品資料等を展示する形で行った。



〈金塚貞夫作品〉

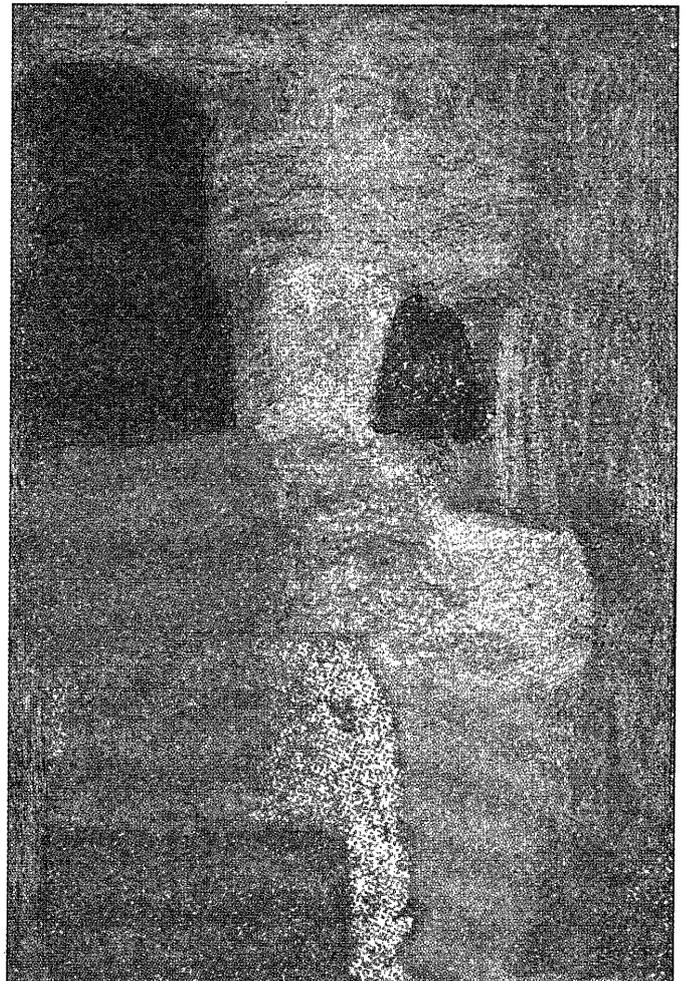


\*以上が、この展覧会の報告だが、この他に詳細な記録資料や新聞の掲載記事、記録ビデオ等がある。

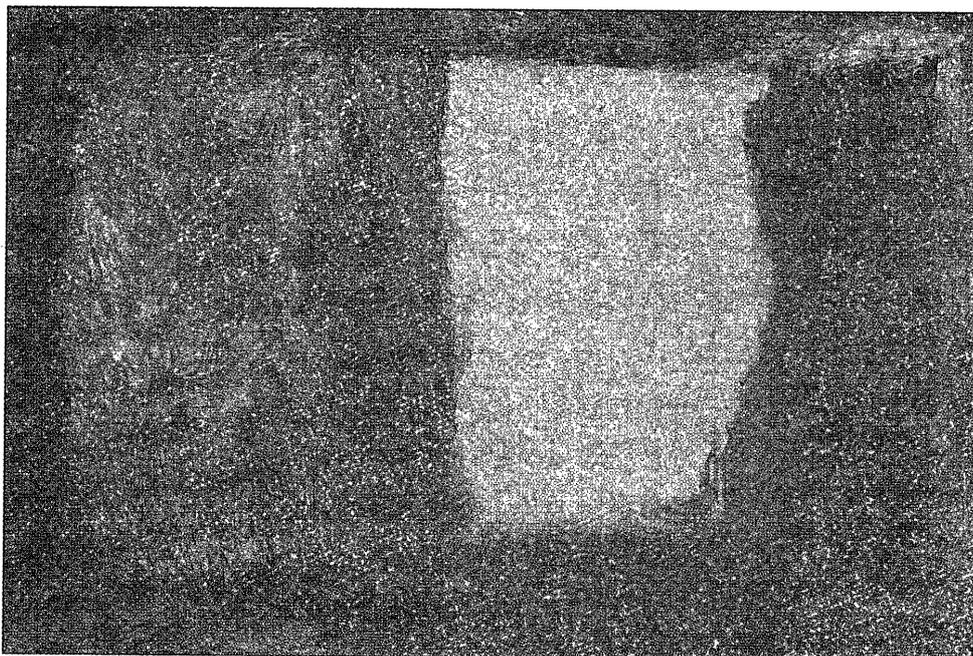


作品No.17 111×76cm クレパス、紙 2001年

\*開隆堂出版株式会社・生徒用副教材『新. 美術の表現と鑑賞』掲載予定作品



作品No.19 910×620cm クレヨン、クレパス、紙 2001年



作品No.11 F 60 クレパス、ベニヤ 1998年

る。上記の資料は、希望があれば坂巻研究室にて閲覧できる。

#### 〈彫塑研究室ギャラリー・これからの企画展〉

今後も彫塑研究室ギャラリーでは、個人の内面世界に深く沈潜していくタイプの表現者と社会現象をモチーフとする表現者を招いて二人展を企画していきたい。「二人展」シリーズでは、二人の作家が創り出す展示空間に響くノイズによって、鑑賞者と作者や企画者が新しい何かを発見するための実験場としてギャラリーを機能させたいと考えている。

「二人展」シリーズの企画コンセプトは、次のようなことである。「内と外」、「虚と実」など対極的な概念あるいはイメージで、それぞれ別の視点を持つ現代美術作品を同じ空間に展示し、二人の表現によって創り出される空間を体験する。それは、我々が、日常、感じ、考えている個人的、あるいは社会的問題と作品の表現内容とを重ね合わせて思考することでもあり、対立する概念やイメージによって作られている展示空間に響くノイズが増幅される事かもしれない。しかし、不協和音の極みから美しい和音が生まれ、鑑賞者と表現者が作る小さな展示空間から出発して現実の社会という空間全体を一人一人が理想とする方向に変化させる発想を持つことに繋がって欲しいという希望を持っている。

‘02年も、新しい「二人展」の企画が進行中であり、金塚貞夫の個展も計画している。今まで、卒業生や、修了生の個展、ゼミ展等も定期的で開催してきたが、地域内外の多くの方々に彫塑研究室ギャラリーでの作品鑑賞をさらに楽しんで頂きたいと願って、招待作家の特別な企画展を内容の濃い展覧会として継続していきたい。

坂巻正美 ‘02.1.21